

病の時代を生きる“力” 「マザリング」とアート ～映画監督・作家：中村佑子さんを迎えて～

「マザリング」とは、子供やケアが必要な人々を守り育てる行為。
生物的な「母性」だけでなく、弱き存在を守りケアする力全般を指す言葉としても注目されています。

本ワークショップでは、生の繊細さや揺らぎを独自の映像世界で表現する映画監督・作家の中村佑子氏をお迎えし、「マザリング」について共に考えます。
中村さんの映像や文章を入り口に、現代社会の中でいまだ見えづらい女性や子供を取り巻く問題について共に考え、学び合います。

誰もがコロナ禍の環境変化で心身の失調を感じる時代。まずは中村監督の映像や言葉に触れ、自分の心と身体を点検してみませんか？

ぜひお気軽にご参加ください。



中村佑子（映画監督・作家）

『あえかなる部屋 内藤礼と、光たち』をはじめ、繊細な揺らぎを触覚的に掴み取る独自の映像世界で高い評価を得る。近著『マザリング:現代の母なる場所』（集英社）やその翻案としてのAR映画『サスペンデッド』（2021年2/11-28シアターcommonsで上映）を通じて、女性性やケアをめぐる新たな表現に取り組んでいる。

- 【日時】 2021年2月26日（金）、2月27日（土）いずれも13時～16時
【会場】 港区立男女平等参画センター リーブラホール（みなとパーク芝浦1F）
【料金】 無料
【定員】 各回25名程度
【参加方法】 申込フォームから予約 | 受付期間1月22（金）～2月11日（木）
＊応募者多数の場合は港区内在住・在勤・在学の方を優先し抽選
＊結果は2月14日（日）までにご連絡します
【託児】 対象は4ヶ月～未就学児（定員あり・申込順）



申込フォームはこちら

【ワークショップ内容】 映像上映、ゲストを招いてのトーク、ディスカッションなど。
以下、①と②のどちらかを選択の上お申し込みください。

① 2月26日（金）13時～16時

病を抱える親と暮らす子供には、世界はどう見えているのか。その特異な世界を、いかに芸術や他者との関係性を通じて受け入れていくことができるのか。AR映画『サスペンデッド』の感想を共有しながら共に考えます。
ゲスト | 小澤いぶき（児童精神科医）、サエボーグ（アーティスト）

② 2月27日（土）13時～16時

AR映画『サスペンデッド』のテーマでもある、病の親を持つ子供たち。その実態はいまだ把握されておらず支援の穴とされています。ヤングケアラー問題など、ケアが抱える社会的課題やその解決に向けた芸術的アプローチについて共に考えます。

ゲスト | 加藤枝里（精神保健福祉士／「ひとりやないで！」代表）
猪俣 剛（臨床心理士、手塚山大学准教授）

<ご参加にあたって>

- ・ワークショップ参加者の皆様には、AR体験型映画『サスペンデッド』の鑑賞（2/11-28）をお勧めします。本ワークショップでは、『サスペンデッド』のリモート配信用映像をご覧頂けます。
- ・中村佑子著『マザリング- 現代の母なる場所』（集英社）をご一読の上のご参加をお勧めします。



『サスペンデッド』
詳細はこちら

主催・お問合せ | シアターcommons実行委員会

Mail: artscommons.tokyo.inquiry@gmail.com / Tel : 050-5358-8561（期間外の土日除く 10:00-18:00）

共催 | 港区 令和2年度港区文化プログラム連携事業